

---

# 遥かなる静寂の果て

天地 とんぼ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遥かなる静寂の果て

### 【Nコード】

N4036B

### 【作者名】

天地 とんぼ

### 【あらすじ】

ボクは、学校をズル休みして、街をさ迷っていた。なにも感じない人間なんていないんだ

複雑に入り組んだ路地は己の存在さえもあやふやにした。一体、自分はどうして此処にいるのだろうか。

生温い風が頬を撫でるたび、ゾツとして鳥肌をたてる。

「何をやってんだろうなボクは」

今日は木曜日。学校もある。なのに、ボクは此処にいる。学校は自宅に電話して、家にいる母親は戸惑いながら

「息子はいつも通りに家を出ました」

と言っのだろう。

“いつも通り”に見えたのは、“いつも通りに見える”様にボクが演技したから。

ビルの間から見える灰色の空は、どことなくボクの心境を写しているような気がして、なぜか安心出来た。もし、今日が晴天だったならボクは普段通り学校へ行っていただろう。

学校をズル休みして、やりたい事があるわけでもなかった。だから、こうして家にも帰れずふらふらと街をさ迷っているのだ。

今まで無遅刻無欠席だったボクが、何も告げずにいなくなつて、親も学校も心配しているだろうか。そう考えると、胸の高鳴りが強まった。

ポツポツ…と雨が降ってきた。大通りには傘をさした人が増え、足元には水溜まりが出来てきた。ボクは傘を持っていなかったので、濡れないようにアーケードに入った。

もうすぐ正午だ。そろそろお腹が減ってきた。お金はあるので、コンビニにでも行こうか。

ボクには夢がない。将来、何になりたいかを問われても、ボクは答えをもっていない。果たしてボクはこれから何をするのか。

「どうするかな…」

呟いて、うつ向くと、一輪のくたびれた花が咲いていた。

「踏まれても踏まれても、必死で生きている」

だから皆も頑張ろう。そんな事をこの間学校に講演にきた女の人  
が言っていた。ボクは顔の表面で笑いながら花を踏みつけた。もう、  
二度と美しく咲くことのないように、踵で念入りに踏んだ。花は最  
早、魂もなくなつて、花の外観もなくなり、ただそこに存在していた。  
彼はその塊を見て、そつと家の方へ歩き出した。負けても、負け  
犬になるのは嫌だったからだ。

ボクは、誰かに踏みつけられる様な存在にはなりたくないから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4036b/>

---

遥かなる静寂の果て

2011年1月16日03時46分発行